

京都精華大学 教育後援会 2023 年度 第 3 回役員会 議事録

開催日時：2024 年 3 月 21 日（火・祝）13 時半～14 時 40 分

開催場所：H-417 会議室、オンライン

出席役員：

（会長）塩路 有紀、（副会長）井上 孝晴、（会計）小林美智子、（監事）金澤 達則、（以下、学部幹事）夏目 友加、椋本 千鶴子、久保園 順子、兒玉 修一（オンライン参加、学部幹事）佐々木 潤子、松本 高志

本学参加者：

（学長・教育後援会顧問）澤田 昌人、（副学長）吉岡 恵美子、（学生部長）田村 有香、（教学グループ長）片田 克、（学生グループ長）山元 英昌、（経営企画グループ長）飯澤 ちあき、（経営企画グループ）橋下 昂平、猪川 綾子

本学欠席者：

（副学長）三河 かおり、（教務部長）斎藤 光

記録：

（経営企画グループ）猪川 綾子

報告事項

1. 2023 年度活動総括

事務局から、2023 年度の教育後援会活動の実施内容の総括について報告があった。

報告に関して、

役員から、令和 6 年能登半島地震被災学生支援について、自然災害等により災害救助法等の適用地域の指定を受けた地域に本人もしくは学費支弁者が居住し、就学継続が困難となった学生に対し、学費減免等の救援措置を取る「京都精華大学自然災害等の被災者に対する学費減免等救済措置規程」の支給対象者は 1 名と報告があったが、A. 学費減免は 1 年ごとに判断するのか。B. 規程の対象外の学生にはそれぞれに適切な支援を行っていくとあったが、どのような支援をするのか。C. 支給対象者が 1 名だと 200 万円の寄付は多いのではないか。D. 今回の支援は学生の方からの要望か地震を受けて大学側から先に動いたのか、との質問があった。E. 今回の能登半島地震で命を落とされたのが下敷きになった方が大半だったと聞いたが、大学での耐震対策は大丈夫か、と質問があった。

事務局より、A. 学費減免に関して、年間授業料の半額を支給することが決定しているが、規程では当年度の学費の減免となりその後の年次については支援対象となっていない。B. 学生から報告された被害を定量的に調査し、その結果に基づいて規程の対象外である学生にも支援が行えないか検討中である。C. 被災した学生への規程内・規程外の支援を終えた後で残額があれば、今後こういった自然災害で被災した学生支援のための原資、あるいは基金化するなど適切な用途を検討したい。D. 地震発生 of ニュースを受け、大学からホームページやセイカポータルで支援内容を発信し、学生から被害状況の情報収集を

行った。E. 本学の災害対策について、情報を収集して改めて回答させていただく、と回答があった。

2. 2023 年度役員退任者

事務局から、2023 年度で退任される役員について報告があった。

議事事項

1. 2024 年度役員会体制案

事務局から、2024 年度の教育後援会役員会の体制について、役員就任継続となる現役員 9 名に加え、全学部の新入生保護者から 4 月に新役員を募集のうえ、最終的な体制案を 2024 年度第 1 回役員会で提案することが説明された。

役員から、役員募集についてあまり記憶がないがどのように募集しているのかと質問があった。

事務局から、教育後援会からの案内について、2022 年度以降入学の保護者には一斉送信メールで案内しており、それ以前の保護者には郵送で案内をしていると回答があり、本議題は承認された。

2. 2024 年度教育後援会活動案

事務局から、2024 年度の教育後援会の活動（役員会、総会、教育懇談会、懇親事業）について資料のとおり提案があり、本議題は承認された。

3. 2024 年度寄付事業案

事務局から、2024 年度の寄付事業の金額について資料のとおり説明があった。

説明に関して、

キャリア支援活動への賛助について、2023 年度は 700 万円を賛助したが 2024 年度は 200 万円の予算になり大きく減額したのはなぜかとの質問があった。

事務局より、2023 年度は「キャリアパーク」設置にかかる費用の一部賛助のために 500 万円増額しており、通年は 200 万円の賛助をいただいているとの回答があった。

キャリアパーク活用のために、今までの就職支援に加えて増員などで経費がかかると思うが、200 万円に減額して活用に支障は出ないかとの質問があった。

事務局より、運用に係る費用、人件費などは大学の事業計画の中で経常費として確保するべきであると考えている、と回答があった。

キャリア支援に関する補足として学長から、学生へのアンケートで「どんな人に就職相談にのってほしいか」という質問で、回答の上位に教員が入っている。そのため教員に対してキャリア支援チームが持っているノウハウや問題意識を教員へ共有することが必要だと考えている。親の言うことはなかなか聞かないが教員の言うことはある程度受け入れてくれるということもあるので、人件費がかかるわけではないが、情報の共有や伝達にもっと工夫する余地があると考えている、と意見があった。

保護者向けのキャリア関連情報冊子について、先日受け取ったが、内容が去年とそう変わらないと思うが、どのように冊子の編集内容を決めているのかと質問があった。

事務局より、ご指摘のとおり内容に大きく変わりはないが、当然変化していく情報を織り込みながら、変わらない部分は変わらず掲載している。常に保護者に情報を把握してもらいやすいよう検討しながら制作している、との回答があった。

保護者向けのキャリア関連情報冊子の中で、クリエイティブ職への就職の割合が多いようだがクリエイティブ職の就職先がそんなにあるのか実態が知りたい。また、芸術系以外の求人はあるのか、との質問があった。

事務局より、本学は芸術系の学部が多いためそちらを目指す学生が多く求人も芸術系の方が多い。一般職を目指す学生には、オンラインの就職サイトの使い方やどう進めるかなど具体的な就職活動の方法等教員の指導が重要になってくる。また、今年の4月からキャリア支援にクリエイティブ系と幅広い文系の指導ができる2名の特任教員が入る予定であり、キャリア支援に力を入れていくとの回答があった。

求人について、最近では給与よりも休日が多い会社を希望する学生が多いらしく、例えば中小企業で休日が少なく土曜日にも出勤する会社が大学へ求人を持っていくと、大学側から「規定の休日日数に達していない」と求人を突き返されることがあると聞いたが、本学はどうしているのか、との質問があった。

事務局より、労働条件については必ずチェックしており、基準をクリアしていても、卒業生にも情報を聞き、学生には内情を話す等丁寧に対応している、との回答があった。

第2回役員会で学生たちに社会保険等の制度についてセミナーを開催してほしいという意見があったが金融資産についてもセミナーをしてほしい、との要望があった。

事務局より、前回の要望をキャリア支援チームへ伝え、新年度に向けてそういった場を提供できるよう進めている、との回答があった。

食堂での学生応援メニューについて、200円でランチが食べられるのは本当にありがたいと思っているが、子どもから、「最初は食べていたがメニューに飽きて学生応援メニューを食べなくなった」と聞いた。予算があるので難しいと思うが学生応援メニューの内容を工夫してほしい、と要望があった。

事務局より、検討してできるだけ工夫したいと思う、と回答があった。

その後、①奨学金の充実500万円、②キャリア支援活動への賛助200万円、③学内環境の設備支援1,000万円、④食環境の充実603万円、⑤入学記念品の贈呈144万円、総額24,470,000円の寄付事業を実施する最終案を、2023年度第1回役員会に提案することが承認された。

塩路会長から、全議事の終了が述べられた。

4. その他

塩路会長から吉岡副学長に、2023年度寄付金の目録が贈呈された。

最後に、出席された退任役員の方へ感謝状・記念品を贈呈し、一言ずつご挨拶をいただき、閉会した。

以上